



新規制定地盤工学会基準・同解説

岩盤の工学的分類方法 (JGS3811-2004)

岩盤分類基準化委員会 編
(社)地盤工学会 発行
A4版, 70頁, 2004年7月
定価1,950円(税込み)

ヨーロッパで岩盤分類方法の国際基準づくりの機運が高まり, ISO14689-2003「Rock Classification and Description」も成立した。本書はこの分野に多くの実績があり, 土木構造物の設計にまで活用されているわが国の岩盤分類の技術を維持・発展させ将来ISO化に対応することを念頭に, (社)地盤工学会 岩盤分類基準化委員会の3年にわたる審議を経てとりまとめられたものである。

本書は4章からなっており各章の概要は次の通りである。

第1章は「まえがき」で, 岩盤分類基準化の必要性和本書とりまとめの経緯が述べられている。

第2章の「地盤工学会基準: 岩盤の工学的分類方法」には, 基準の目的, 適用範囲, 用語の定義が述べられている。

第3章「基準の解説」は「3.1基準作成の経緯と意義」「3.2総則」「3.3分類のための調査および試験」「3.4岩盤の分類方法」「3.5報告事項」の5節に分けられている。「3.3分類のための調査および試験」では岩石の強さに関する試験, 葉状構造に関する調査, 不連続面に関する調査, 粒度に関する調査, 礫の含有率に関する調査, 層の厚さに関する調査, 風化と変質に関する調査などが最近の研究事例に基づいて定量的に且つ簡潔に述べられている。「3.4岩盤の分類方法」では, 具体的な岩盤分類の方法として大分類・中分類・小分類および細分類の基準が示され, 地下空洞・長大橋・ダム基盤・トンネル等における適用事例が詳しく述べられている。理解を助けるためのカラー写真やスケッチ例も添付されていて, 大変わかりやすい。「3.5報告事項」では報告書に記載すべき事項が整理されている。

そして第4章は「基準の適用」で, 既存の代表的な岩盤分類方法を網羅し, 新たな基準への道のりと新基準と従来のそれとの関係が示されている。



問い合わせ

〒112-0011
東京都文京区千石4-38-2
(社)地盤工学会販売係
TEL 03-3946-8671
FAX 03-3946-8678

巻末には将来のISO化を目指して本書のエッセンスをまとめた8頁にわたる英文版が添付されている。

地盤工学会が設立当初から重要な柱の1つとして力を入れてきた課題と言うこともあり, 長年の研究成果が濃縮された力作である。土木・建設系のコンサルタントの技術者には調査の実施時にも, 報告書のとりまとめにもこの上なく便利な1冊であろう。地質の調査・研究に携わる技術者や研究者にも, 机の脇に常備する事をおすすめしたい。

これまででは, 建設する構造物ごとに若干異なった岩盤分類の基準があり, 各分野の技術者・研究者の間に低からぬ「壁」があった。本書が広く利用されることにより, 統一的な視点での岩盤に関する情報が蓄積され, より岩盤に対する理解が深まることが期待される。

また理学・工学の境界が薄れつつある中で, 地質の調査・研究に携わる技術者や研究者と構造物の建設に携わる技術者とが, 互いに共通理解を深めるのにもよい機会になるだろう。

各種調査手法や試験方法などの基準化が国際的なレベルで進められる中で, 長い経験と実績を有する日本の調査法・試験法を, 世界に向けて発信しようとする地盤工学会 岩盤分類基準化委員会および関連委員会, ならびにこれらの活動を後押しする関係者の意欲と長年にわたる労苦に深く敬意を表し, 書評のまとめとします。

(地質ニュース編集委員会)